

表紙

中央上

まんが
平戸のキリシタン

クレジット

画	米倉裕治
タイトル文字	大石萌蘭
協力	寺田一男 (平戸市春日町)
作	田中能孝

青枠

中江ノ島
オラショ

縦書きタイトル

祈り (INORI)

下部左

ユネスコ世界文化遺産
長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

最下部左

発行 平戸市文化交流課 2020 年 9 月

PAGE 1

No. 1

1614 年。幕府は全国でキリスト教を禁止し、外国人宣教師を追放しました。それでも、多くの神父が密かに日本に入国し、宣教を行おうとしていました。

吹き出し

キリスト教は仏教と神道から人々を引き離す邪教である。もしこの新しい法令に違反すれば、すみやかかつ厳重に処罰する。

効果音

ざわざわ

掲示板

日本語のままの方が味があると思います。（筆者）

No. 2

時は過ぎ、1622 年。平戸で密かに活動していたカミロ神父は、宣教のためにはるばる五島列島までやってきました。

No. 3

カミロ神父は五島藩の役人に捕らえられ、平戸の焼罪（やいざ）で火刑に処せられました。

No. 4

赤字

すべての民よ、神をほめたたえよ

聖なるかな

聖なるかな

聖なるかな

（カミロ神父は当時 50 歳だった）

効果音

ポアアア

文字枠

9 月 15 日。カミロ神父は柱に縛られながらもポルトガル語と日本語で説教をしました。火がつけられても止めることはなく、亡くなる間際まで聖歌を歌っていました。

PAGE 2

No. 1

悲劇はカミロ神父に宿を貸したり五島までの船旅を手助けしたりした人々にもおよびました。全員が捕われました。

No. 3

信仰を捨てることを拒否した人々の中にヨハネ次郎右衛門という人がいました。彼は中江ノ島に連れられる船でこのような言葉を残しました。

No. 4

この場所は天国からそう遠くない。

No. 5

1622 年と 1624 年、中江ノ島で多くのキリシタンたちが斬首などの手段で処刑されました。

Page 3

No. 1

1959

おじいちゃん、何て悲しい話だろう！

効果音

ギシギシ

No. 2

寺田作太郎 54 歳

寺田一男 10 歳

吹き出し

中江ノ島に行くのはこれが初めてだろう、一男。この場所にまつわる話は悲しいものばかりですまないね。

No. 3

おじいちゃんはよく島に行くの？

No. 3

ああ、いろいろな儀式でこの島のお水を使うからね。

No. 4

そうなんだ。

No. 5

中江ノ島には三体の神聖な像を祀った御堂があります。この御堂は、キリシタンたちがこの場所で処刑された先祖を偲ぶため 1950 年代後半に建てたものです。

PAGE 4

No. 1

ザザザザ

No. 2

一男のおじいちゃんの言うお水とは、隠れキリシタンが儀式で使う聖水のことです。この水は中江ノ島の岩場から汲まれます。

効果音

ザーツ

No. 3

ヒュー

No. 4

わあ！近くで見るとこの岩は大きいな！

No. 5

オラショを唱えとお水が湧き出すんだ。

PAGE 5**No. 1**

チリチリ

No. 3

主よ、大事なお水を下さってありがとうございます。

No. 4

お水取りという儀式では、お水は隠れキリシタンがオラショを唱えることによつてのみ出てきます。

No. 5

ポン

PAGE 6**No. 1**

聖水が入った瓶などの道具は信者の家を浄めるのに使われます。この儀式は「家祓い（やばらい）」と呼ばれます。

No. 2

オラショを唱えながら玄関から家祓いを始めます。

シヤツ

No. 3

それから中柱を祓い

No. 4

床柱を祓います。

No. 5

最後に玄関に戻り、悪いものを外に追い出します。

注

絵は生月の家祓いについての資料をもとに描いたものです。

PAGE 7

No. 1

毎年 1 月 2 日、おじいちゃんと僕は山に登って海の向こうの中江ノ島に祈りを捧げるんだ。

ガザッ

No. 2

おじいちゃん、待って！

No. 3

はふーっ

No. 4

一男、昨年を無事に過ごせたことを神様に感謝しなさい。

No. 5

僕が住んでいる地域には約 400 年前にキリシタンの教えが伝えられた。僕たちは今でも中江ノ島に向かって祈りを捧げる。中江ノ島は僕らにとって特別な場所なんだ。

注

3 ページからは寺田一男さんの個人的な体験の一部をもとにストーリーを構成しています。